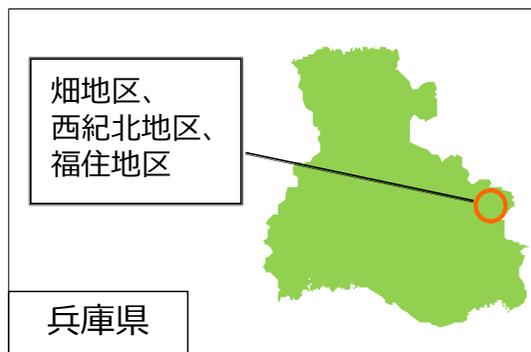


取組のポイント

- ◆ 「獣がい」そのものを資源と捉え、獣がいを誘引している放置柿の実態を調査、収穫作業をイベント化し、放置柿を商品化。開発商品をふるさと納税に活用し、事業を循環させる仕組みづくり。
- ◆ 獣害防護柵の点検をテーマにしたハイキングによる関係人口の増加や、地域課題解決をテーマに、地域の子育て世代や農家のコミュニティを作り、商品販売戦略を検討するほか、住民・高校生・域外からの賛同者等多様な主体の協働による事業の推進。

地区の概要

- ◆ 位置
兵庫県丹波篠山市



- ◆ 活用した地域資源
柿、獣害から守った農作物
(米、野菜)
- ◆ 事業実施主体
丹波篠山市
- ◆ 主な取組団体等
県立篠山東雲高校、神戸大学、
兵庫県立大学、みたけの里づくり協議会、川阪活性化委員会ほか
- ◆ 事業実施期間
R3~R5

取組の特色

地域資源の調査や付加価値向上等の取組

- ◆ 放置柿の資源調査により、活用可能な柿の把握と収穫体制の構築。
- ◆ 市内の農業高校と連携し、柿ジャム等を商品開発。



【柿収穫イベント】 【高校生も主体的に参加】

地域資源の消費拡大や販売促進等の取組

- ◆ 里山を守るという理念のもと、獣がい対策応援消費コミュニティを作り、販促等について定例会を開催。
- ◆ 柿スイーツレシピコンテストを開催し、レシピ集を作成、市のウェブサイト上などで公開。



【コミュニティ作りのための講座開催】 【応募65点から柿ジャムアイスが最優秀に】

取組の成果

- ◆ 柿や獣害から守った農作物を活用した商品開発 11品（柿ジャム、柿のドライフルーツ、柿パウダー、ストーリー性を付加した農作物の定期配達便「篠来たる」ほか）
- ◆ 獣がい対策貢献商品の販売額 900千円（R2実績）→ 2,713千円（R5実績）※対前比134%
- ◆ 獣がい対策応援消費コミュニティ「さとえーる」始動（地域住民ほか西宮市（兵庫県）などからも参画）